平成28年度学生と学長との懇談会

本学に対する大学院生からの意見・質問への回答

	2 大学生活について		回答
1	学教育 部•栄 養生命	ー般学生には、実際に震災が起こった時にどうしたら良いか判らないと思う。授業で知識を持っていたら災害時グループリーダーが出来るのでないか。 入学時のオリエンテーションで災害に対応する情報を提供出来るのでないか。	教養教育では、選択科目として「災害を知る」「災害に備える」を 開講してます。本講義は、特定非営利活動法人日本防災士機構の防災 士養成研修プログラムに準拠し、単位を取得した者は徳島大学防災 リーダーとして認定されます。また、この認定をもって「防災士」の 受験資格が与えられます。その他に教養教育科目には「地震・火山災 害を防ぐ」等、専門科目でも「地域の防災」等を開講しています。 学務部学生支援課では、地震発生時のいざというときのための常時 携帯用に①地震発生時の初動マニュアル・10分間行動マニュアル②各 キャンパス地区毎の避難場所③所属学部、教育部連絡先情報等が記載 されている名刺サイズの防災手帳を毎年作成し、全学生に配布しています。 今の大学教育を考えると、これ以上の防災対策授業の単位化は無理 であるが、本学には徳島県外出身の学生が多く、必ず大時ます。 るので、防災対策事業が必要であると考えています。入学時オリエンテーションにおいて、これまで以上の防災対応への情報提供も考えます。また、災害避難訓練もやっていきます。
2	保健科 学教育 部	事務からの情報がメールで多く届き、多くの場合には添付ファイルが付いている。私はメールを携帯電話に転送するようにしているので、添付ファイルは携帯電話からでは見られない。ー々パソコンで確認する必要があり、ワンクッション遅れるため携帯電話でも内容が判るようにして欲しい。また、ホームベージでアドレスを確認し教員にメールを送るとメールアドレスが古いため届かない場合がある。情報の発信と更新を早くして欲しい。	ご意見を周知し改善してもらいます。

平成28年度学生と学長との懇談会

本学に対する大学院生からの意見・質問への回答

	2 大学生活について	回答
3	毎日忙しく、とても充実した日々を過ごしている。私の所属研究室では学生の積極的なセミナー及び学会への参加・発表の機会が設けられており、非常に恵まれた環境であると感謝している。今後、このような大学院生活で得られた経験・知識を特に研究で活かせることができればと考えているが、今後の進路に関して不安に思うところもある。	進路については、研究、教育、臨床など、多領域にわたりますが、 自分がやってみたいことをまず見つける努力をすることも大切と思い ます。そのためにも、様々な機会を捉えて、多面的なものの見方を育 成してほしいと思います。
4	薬科学 教育部 生協にATMがほしい。	現在,病院外来受付前にATMを設置しており,多くの患者さんや 教職員に利用されています。同キャンパス内に追加設置することは難 しいため,病院内のATMをご利用いただけたらと思います。
5	薬科学 教育部 薬学部の階段に手すりがほしい。	設備及び予算上、設置可能であるか検討します。
6	大学院ではTAとして授業に参加する機会を与えていただいたが、 TAは修学の機会であると共に経済的な支援をいただける機会でもあるため、多くの学生が大変助かっている。また私は日亜特別待遇奨学生として奨学金を給付していただき、経済的に非常にありがたかった。奨学金の給付が大学院進学を決意する大きな動機となったため、今後も日亜特待生の制度が存続してほしいと思う。	先端技術科学教育部では、博士前期課程で6割を超える学生を、博士後期課程では約2割の学生を毎年TAに任用しています。予算の制約もありますが、今後も継続して任用して行く予定です。また、日亜特別待遇奨学生については、日亜化学工業株式会社様のご厚志により贈られた寄附金を原資として、返済義務を課さない奨学金を給付する特別待遇奨学制度として平成17年に発足し、現在までに延べ292名の学生が特待生として採用されています。本制度についても、継続して運用していく予定です。
	先端技 術科学 教育部	徳島大学の災害用の備蓄は、数日分対応出来ます。病院は患者対応があるのでもう少し多いです。また、生協と飲み物及び食べ物とかを供給頂けるような協定を結んでいます。